

2019年6月7日発行
2019年7月24日更新
2020年2月12日更新

2020 年度

経済学部ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

2020 年度 経済学部
ゼミナールガイドブック

明治学院大学経済学部

目 次

演習を履修しようとする皆さんへ … 2

教員によるゼミの紹介 … 3～50

経済学科	頁
犬飼佳吾	3
江川雅司	4
大村真樹子	5
岡本実哲	6
神山恒雄	7
神門善久	8
齋藤隆志	9
坂本陽子	10
佐々木百合	11
白井誠人	12
宋立水	13
高松慶裕	14
千葉正憲	15
中尾茂夫	16
中野聡子	17
中村友哉	18
西尾敦	19
村田玲音	20
室和伸	21

経営学科	頁
赤松直樹	22
飯田浩司	23
池尾恭一	24
稲山健司	25
大澤篤	26
大竹光寿	27
北浦貴士	28
斉藤嘉一	29
佐藤成紀	30
鳥居宏史	31
西村三保子	32
濱口幸弘	33
林祥平	34
吉田真	35

国際経営学科	頁
渥美利弘	36
井川ジェニファー	37
岩尾俊兵	38
生方雅人	39
大平浩二	40
神田良	41
小滝秀明	42
斉藤都美	43
手塚奈々子	44
タット・リドー	45
西原博之	46
広瀬要輔	47
藤田晶子	48
松園保則	49
山田純平	50

演習を履修する皆さんへ

2019年6月7日

経済学部長 中野 聡子

経済学部では、3年次、4年次でゼミを履修することができます。ゼミとは、少人数の演習（ゼミナール）のことで、大学での勉強の醍醐味がここにあります。大学の先生は、必ず専門分野があり、その分野をずっと研究し続けています。その先生の研究に沿って、特定の分野を学び、仲間と共に切磋琢磨することができるのが、ゼミの場となります。先生や仲間と議論することで、本や講義だけではなかなか得られない学問の本質に近づくことができます。考え方の組み立て、探求方法、調べ方、その分野の研究している他大あるいは世界の研究者には誰がいるのか？学会で何が問題になっているのか？現代の様々な現実にどう関わりがあるのか？そして、仲間はそれらにどう反応し、自分はどう考えるのか？大学におけるこのような交わりの中からは、学問の知識だけでなく、高度な思考法、ひいてはそれらを身につけた人格に至るまで、得難いものを吸収することができます。

ゼミに参加すると、2年次から予備ゼミ、歓迎会、3年次から毎週のゼミの準備、プレゼンテーション、ゼミの勉強会、レポート作成、ゼミ合宿、図書館での検索、卒論のテーマ選び、ゼミ単位のスポーツ大会、卒論の作成、卒論発表会などの活動が続きます。卒業単位の中では、12単位を占めますが、大学生活の中で自分を形成するものとして、それ以上のものが蓄積されます。かけがえのない仲間との出会いもその一つです。

大学で何を学びましたか？と将来問われたとき、それをきっちり答えられるということはとても重要です。そのためにも、自分でよく考えてゼミを選び、その上でゼミに積極的に参加してください。まず、どのゼミを選ぶかというところから、大事なスタートです。周りの人の意見に流されるのではなく、自分で情報を集めて、何をゼミで学びたいかよく考えてください。そのために、この冊子は、ゼミの内容についての情報を提供しています。また、学生によるゼミの説明会、教員によるゼミの説明会に参加することで、ゼミの様子を先輩から聞いたり、担当の先生から直接内容を聞くことができます。

みなさんのゼミ活動が、充実したものになることを願っております。

犬飼 佳吾 ゼミナール【実験経済学研究室】

演習のテーマ

行動経済学、実験経済学、ニューロエコノミクス

演習の内容

このゼミでは、実験という手法によって、私たちの意思決定や行動原理、経済の仕組みを理解することを目的としています。ゼミの学生は、実験研究に関する背景知識の学習を進めたうえで、教員と相談しながら実験研究のプロジェクトを進めます。研究を進めていくなかで、経済学の考え方や理論を学ぶだけではなく、実際の私たち自身の行動の仕組みについて理解し、より良い意思決定や社会の仕組みを考えていきたいと思います。

ゼミで扱う研究範囲は多岐にわたります。たとえば、私たちの意思決定のクセや特徴を調べたり（行動経済学）、経済や社会の仕組みを実験によって検討したり（実験経済学）、経済学的な意思決定や判断をしているときに脳や体の中でどんなことが起こっているかを研究（ニューロ・エコノミクス）します。これらの課題について教員やゼミ生と議論しながら、卒業論文にむけて研究を進めていきます。

また、このゼミは従来のゼミの枠組みを超えて、実験経済学研究室という単位のもと、国内外の研究者と連携しながら先端研究を推進しています。

生物として「ヒト」と経済学や社会科学が対象とする「人」との間をつなぐ研究に興味をもち、強い情熱や好奇心のある方を募集します。

江川 雅司 ゼミナール

演習のテーマ

国と地方政府（都道府県と市町村）の財政に係る研究

演習の内容

具体的テーマ：「国（中央政府）の財政分析」、「所得か消費の課税ベースの研究」、「所得税制度や消費税制度の研究」、「年金・医療制度の研究」、「財政再建策の研究」、「地方政府の財政分析」など。

いつの時代でも、国並びに地方政府（都道府県と市町村）における行財政問題が話題になりますが、この問題（具体例として、財政赤字と財政再建問題、消費税・地方消費税制度並びに税率に関わる問題、所得税・法人税の増減税問題、新税導入及び公債発行等による財源調達問題、社会保障財源確保問題、年金問題、歳出額削減問題、国から地方政府への税源移譲・補助金制度問題、及び地方分権化問題等をあげることができます）は、国のみならず地方政府（地方公共団体）にとって、「公平」、「効率（中立）」、並びに「財源確保」の行財政運営基準から照らして発生するものであり、決して無視することのできない重要な問題です。とりわけ、国及び地方政府の財政赤字と財政再建策の問題は、他の先進諸国の財政と比較しても重要な検討問題であるといえます。さらに、国際化に伴って、国家間の税制度や税率の相違から発生する国際課税のあり方も問題となっています。

したがって、本演習では、ゼミ生諸君に、国と地方政府（地方公共団体）が抱えているさまざまな問題のうち、関心のもてる問題を一つ採り上げてもらい、その問題の現状と対応策等を考察し、卒業論文としてまとめることができるように指導します。その際、言うまでもなく分析する道具（制度、理論など）の力を養うことに心がけて指導します。

また、ゼミ生諸君が、研究ばかりでなく将来の進路を決定できるような就職活動対策、コミュニケーション能力の育成にも努め、演習の一環として指導することに努めます。

大村 真樹子 ゼミナール

演習のテーマ

開発経済学

演習の内容

世界には経済成長を遂げた富裕な国々（先進国）と、未だ深刻な貧困を抱える国々（発展途上国）が混在しています。また同一国内においても、都市部・農村部でその経済発展度合いが大きく異なります。

何故いつまでも貧困から抜け出せない人々・国々があるのか？先進国と途上国では経済構造がどのように違うのか？貧しい人々はどのような状況で生計を営んでいるのか？そうした人々はどのようにして貧困を克服しようとしているのか？

上記の疑問を考察する切り口は無数にありますが、本ゼミナールでは、開発経済学の主な理論を学習し、こうした疑問に対する分析枠組み・分析方法を学んでいきます。発展途上国の現状を見ると、通常の経済理論で仮定されている様々な前提が成り立たない場合が多くありますが、現状に見合うような制約を取り入れ、経済学の枠組みで分析することで、その問題の本質と解決策を見出すことが可能となります。

大村ゼミでは3年次では、ゼミ生はテキストを輪番で発表し、討論に積極的に参加することが求められます。ゼミで採用している教科書は邦訳版がない英語のテキストブックになります。ですので、ゼミ生同士で協力して内容の理解に努め、発表を準備することが必要となります。同時に4年次から本格的に取り組む卒業論文にも、3年次の中頃から取り組み始めます。

本ゼミナールの目的は、発展途上国の開発問題を考察し、経済学的に分析する手法及び、分析したものを的確に表現する一論文を書く・発表をする一力を身につけることにあります。こうした能力は将来、どのような分野に進もうとも有用な資産となるでしょう。また、様々な途上国の状況を学ぶことで、多様な経済社会事情に対する造詣を深め、視野を広げることが期待されます。

岡本 実哲 ゼミナール

演習のテーマ

ミクロ経済学・ゲーム理論—オークション，マッチング，社会的選択理論

演習の内容

このゼミでは、ミクロ経済学・ゲーム理論の応用として現実のマーケットや社会制度の設計をテーマに学びます。

あなたが何かモノを売りたいとしましょう。そのモノは「誰が一番高く買ってくれる」、また「いくらで買ってくれる」のでしょうか。一人ひとりいくらで買ってくれるか聞いて回るのも大変だし、そもそも聞いたところで正直に回答してくれるかもわかりません。またお店を開こうにもどのくらいの価格を付ければ上手くいくのかわかりません。

オークション（競争入札）は、そのモノに興味がある人に集まって競争してもらう場を設けることにより「一番高く買ってくれる人」と「価格」を見つける手段です。しかし、ひとえにオークションといっても様々なルールがあり、どのように競争してもらうかによって結果が変わってきます。オークション理論では、オークションのデザインによってどのように参加者の行動や結果が変わるのかを分析します。

今日、オークションはいたるところで行われています。美術品などの高価なモノを扱うイベントから、個人でも簡単に参加することができるインターネットオークション、国債や周波数帯利用権といった公共部門によるオークションまで、様々なオークションが開催されています。皆さんが Google で検索するたびに表示される広告もオークションで決まっていますし、メルカリでの販売もある種のオークションとして捉えることができます。ゼミではこういった現実の問題を念頭にオークションのデザインなどを学びます。

ここではオークション理論を例に挙げましたが参加者の興味関心に応じて、マッチングや投票制度の設計、産業組織論、契約理論などの関連分野も扱います。ゼミは、経済学の考え方を養うことも当然ですが、経済学を通して「自分なりの考え方を持つ習慣」や「自分の考え方を他人に伝える力」を養う場にもしたいと考えています。そのためゼミは講義を受けるのではなく、参加者各自が興味を持ったテーマについて発表してもらい、また発表を通して皆さんで議論していく形式で進めます。

このゼミは 2020 年度新規創設のゼミになります。主体的にゼミの活動に参加し、運営にも協力してくれる方を歓迎します。

神山 恒雄 ゼミナール

演習のテーマ

近代日本経済史(幕末開港～第二次世界大戦)

演習の内容

近代の日本経済(幕末開港～第二次世界大戦)について検討します。

近代日本経済史を学ぶ意義は、現代とは本質的に異なる側面を持つ近代日本経済の実態を解明することで、現代日本経済を相対化してその特徴を理解することにあります。

そこで3年次では、まず基礎的な知識を習得するために、近代日本経済史の展開を大筋で把握できる概説書を講読します。その上で、特定の分野や時期を対象とする最近の研究書・論文(たとえば明治期の鉄道史)を講読することで、日本の資本主義化が可能になった条件を考察します。

4年次では卒論を作成します。テーマは近代日本経済史に関するものについて、参加者各自の関心に基づいて決めます。その上で、先行研究や利用可能な史料を収集・読破して卒論の執筆を進めるのですが、演習では進捗状況に応じて中間報告と個別相談を行います。卒論執筆には一定の準備期間が必要ですので、どのようなテーマで卒論を書きたいか、早くから考えておくことが重要です。

なお演習は毎回担当者を決めて発表形式で行いますが、発表担当者以外の参加者も討論に積極的に参加するために予習が不可欠です。また合宿などゼミの行事に積極的に参加・協力してください。

演習に関する質問はE-mailを利用してください。面談の必要があれば日時を相談します。(アドレスは kamiyama@eco.meijigakuin.ac.jp)

神門 善久 ゼミナール

演習のテーマ

経済学の基礎がため

演習の内容

日常の諸問題に経済学的なアプローチをあてはめる。具体的な進め方は参加者と話し合って決める。

齋藤 隆志 ゼミナール

演習のテーマ

労働経済学

演習の内容

このゼミの一番大きなイベントは、3年生の秋学期に実施する他大学との合同ゼミです。4~5人のグループを作り、労働経済学のテーマで興味のあるものを自分たちで選択し、計量経済学を用いた分析を中心とする研究報告をしてもらいます。では、労働経済学に関するテーマとはどんなものがあるのでしょうか。

皆さんにとって身近な労働というと、まずはアルバイトでしょう。しかし、アルバイト一つをとっても、同じ仕事なのに時間や場所によって時給が違います。正社員とアルバイトが同じ仕事をしているのに、時給が全然違うということもあります。また、パートに代表される「非正社員」の割合が高くなり、多くは女性ですが、何故でしょうか。

さらに最近では人手不足を背景に、外国人労働者が増加し、AIやロボットに代表されるように人の代わりに働いてくれるような技術も進展しています。コンビニ等でも外国人の店員さんをよく見かけますし、無人レジも増えています。これらが、日本の労働者にどのような影響を与えるのか。失業者を増やしたり賃金を低下させたりするのか、あるいはその逆なのか。もしくは良い影響を受ける人と悪い影響を受ける人が同時にいて、それらの間には何か違いがあるのでしょうか。

また、ほとんどの学生は在学中に就職活動を行います。企業にとっては採用活動ですが、日本は新卒一括採用がメジャーな存在です。採用されてから退職するまで、賃金の決定、仕事の割り当て、昇進・昇格の決定など、様々な人事制度のお世話になりますが、これらも研究対象です。例えば労働者にやる気を出してもらうには、どのような制度が良いのかということを考えます。経営学に近いテーマと思われるかもしれませんが、人事経済学という関連分野でこうした研究が行われているのです。

皆さんには、3年生の5月末ぐらいまでにグループの研究テーマを決めてもらい、その後関連文献(研究書、論文)を集めて読み、それを手本として自分たちでデータを収集し、夏休みから秋学期にかけて計量分析を行い、結果を解釈し、合同ゼミ用の報告資料を作ってもらいます。毎回のゼミでは、各グループでゼミ以外の時間に集まって作業した成果を発表してもらいます。

勉強以外にも、ゼミ生は毎月イベントを企画します。野球観戦、博物館等の見学、そして中でも夏合宿は大いに盛り上がります。このようにゼミとしての活動が多いため、一人一つ係を担当して運営をスムーズに進めてもらうことになります。サークル・部活・アルバイトとの両立は非常に大変ではありますが、学生生活が充実することは間違いありません。

坂本 陽子 ゼミナール

演習のテーマ

国際経済学、空間経済学

演習の内容

本ゼミ

本ゼミは、火曜日の4、5限に3、4年生合同で行います。4限では洋書（未定）、5限では和書（未定）の輪読を行います。2019年度は、リチャード・ボールドウィン著、遠藤真美訳『世界経済 大いなる収斂』を読んでいます。

サブゼミ

サブゼミは主に3年生を対象として、本ゼミとは別に週に一回行います。サブゼミには各自ノートパソコンを持参してもらい、まずはRというソフトウェアを使ってデータ分析の方法を勉強します。Rの指導は4年生が中心となって行います。Rの使い方について一通り学んだ後は、教員が設定したテーマの下でグループワークを行う予定です。グループワークの成果は、3年生の12月にグループ論文として提出してもらいます。

卒業論文

4年生は、本ゼミの活動と並行して卒業論文を執筆します。卒論では、原則として3年次で学んだRを用いてデータ分析を行います。卒論のテーマは、空間経済学に関連しているもの（例えば、「国際貿易」「地域経済」「産業立地」「都市形成」や「不動産」「交通」「観光」など）であれば、個々の学生の興味に従って自由に設定できます。

その他

ゼミは学生が主体となって運営していくものですので、どのようなゼミになるかはゼミ生一人一人の姿勢にかかっています。ゼミ活動はある程度の時間的拘束を伴うということを理解した上で、それを厭わず積極的にゼミ運営に参加する意志のある学生を2期生として募集します。

佐々木 百合 ゼミナール

演習のテーマ

金融・国際金融

演習の内容

佐々木ゼミでは、金融、国際金融に関連するトピックスを取り上げて研究する。具体的には、まず広く浅く金融・国際金融の知識をつけるためにテキストを輪読して研究上必要な基礎的な内容について学習する。次に、トピックを決めてそれについてグループで研究をすすめ、ゼミ内や他大学のゼミとディベートをすることで理解を深める。その後ゼミ内で研究発表を行う。また、月に数回コンピュータを利用して、テーマに関連したデータを集めて統計的に分析したり、研究成果をプレゼンテーションしたりする。その他、ゼミでは株式運用レース、投信レースに参加したり、見学・合宿・コンパなどの課外活動も行う。

参考として、ゼミで扱うトピックや、卒論に取り上げる題材は、例えば「日本の金融政策の検証」「為替相場の貿易収支への影響」「フィンテックの影響と今後の展望」などである。

ゼミは学生中心に進めるので、しっかり学びたいという気持ちを持ち、積極性のある学生を希望する。

白井 誠人 ゼミナール

演習のテーマ

日本経済論(特に就職先企業の経済分析)

演習の内容

ゼミ生の就職活動や卒業後のビジネス能力を考慮し、以下の内容を予定しています。

3年生： 近年の産業・企業研究の成果を踏まえ、論理思考力やコミュニケーション力等のビジネス基礎力を学修しながら、実際の企業経営者が求める人材と能力について考察します。就職面接時に「大学時代に何を学んだのか」「将来への自己投資として何をしたのか」を明確に説明できるように鍛錬します。応用課題として、大学生活や就職、問題解決等についてのディスカッションテーマを少人数チームで議論し、各チームの結論を個別に発表した後、全員で検討するグループディスカッションを行います。

同時に春学期と夏休みのサブゼミで就職希望業種・企業の歴史、現状や展望、課題等の情報収集および分析作業を進めてもらい、秋学期に経済指標や各種資料を用いた業界分析の発表、相互の志望業界の情報交換および議論を予定しています。

4年生： 自分の就職先企業・産業や仕事内容をより深く考察するために、3年次で養った基礎知識を下地にして産業・企業研究についての代表的文献を要約してもらい、分析視点や手法の土台を構築します。その土台を立脚点として、卒業後、実際に就業して所得を得ることになるビジネスの収益メカニズムや企業組織の構造、業界での位置付け等を考察、将来の予測分析を試みます。

宋 立水 ゼミナール

演習のテーマ

開発経済学と東アジア地域経済に関する研究

演習の内容

経済発展は、世界各国の共通の課題である。本ゼミでは、東アジア地域の経済発展問題を取り上げ、経済・技術的、歴史・文化的、社会・制度的状況について、開発経済学のアプローチでの研究検証を行う。

三年次では、主に開発経済学の理論・実証方法を学習する。四年次では、皆さんが学習した理論・実証方法を応用し、自由に設定した研究を行い、卒業論文を作成する。

ゼミの学習方式は、学生諸君を主体とする個人予習—2～3人グループ学習—グループによる発表—全体討論という形式を採用する。

東アジア地域のような発展途上国の経済発展諸問題を考察するとき、経済学の諸理論（仮説）の習得は当然だが、基本的な分析方法論としての統計学など基本知識の学習を薦める。

ゼミの学習効果を高めるために、読書をすること、思考（仮説を立てる）をすること、議論をすることを全員に要求するが、意欲のある学生を大歓迎する。

なお、三年次のゼミ合宿の代わりに、教員が担当するフィールドスタディ C（中国社会経済現地考察）の実習科目の履修を薦めます。

高松 慶裕 ゼミナール

演習のテーマ

財政学，公共部門の経済学

演習の内容

財政学は、狭義には政府が資金をどのように調達し、どのように支出するか、を研究する学問で、広義には政府の経済活動を対象にした経済学です。主たる研究対象は、租税（所得税、消費税、法人税など）、公債（財政赤字の持続可能性や公債の負担、財政再建など）、社会保障（年金、医療保険、介護保険、生活保護など）、地方財政・政府間財政などですが、他にも予算制度や財政政策などカバーする領域は多岐にわたります。ゼミのテーマは学生主体で決めてもらいます。

ゼミの進め方は以下のとおりです。

3年生：前期前半では財政学の教科書を輪読し、財政学の基礎理論や考え方、制度について学び、何が問題かを考察します。前期後半からは4名前後のグループ毎にテーマを設定し共同研究を行います。その成果は論文にまとめ、11月頃のインターゼミ大会（または他大学との合同ゼミ）で発表します。加えて、各自テーマを設定し、年度末までに卒業論文に向けた中間論文（1万字以上）を提出してもらいます。

4年生：各自のテーマに基づき、卒業論文（2万字以上）を作成します。前期は3年時に提出してもらった中間論文の添削指導から始めます。その後は、ゼミで進捗報告を行っていきます。11月頃には3年生との合同ゼミで卒論の中間報告を行ってもらう予定です。

このように、高松ゼミの基本方針は「論文を書くこと」にあります。グループ論文、中間論文、卒業論文と最低3回は書く機会があり大変かもしれませんが、勉強になるはずです。財政学（または経済学）の領域から自分（達）自身で問題を設定し、それを経済学的に分析し、結果を論理的に表現できるようになることを目指します。

このゼミは2020年度開設の新しいゼミです。（前任校では）恒例行事として、歓迎会や夏合宿なども行っています。特にインターゼミ大会に参加する（または他大学との合同ゼミを行う）ためには、ゼミ生一人一人がゼミ運営に積極的になり、主体的に関与する必要があります。このゼミを1期生として教員とともに作り上げてくれる熱意のある学生を求めます。

千葉 正憲 ゼミナール

演習のテーマ

ヨーロッパの歴史・文化・経済

演習の内容

このゼミでは、ヨーロッパの歴史・文化・経済を学ぶ。

ヨーロッパは、中世中頃までは世界の片田舎にすぎなかったが、近代に入ると、急速に力をつけ、遂に世界を制覇するに至った。しかし、第一次世界大戦を境に、「西洋の没落」が顕在化し、第二次大戦はこの傾向に拍車をかけた。幸いにも、第二次大戦後、ヨーロッパは蘇り、現在では欧州連合（EU）を形成して、米国や中国、ロシアに対峙している。このような長い歴史をもつヨーロッパについて理解を深めることが本演習のねらいである。あるドイツの政治家は「過去に目をつぶる者は、現在に対して盲目になる」と述べたが、本ゼミでは、この言葉を噛み締めながら、学習を進める。

3年次の演習では、(1) 樺山紘一『ルネサンスと地中海』（中央公論新社）、(2) 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社）、(3) 岩田健治他『現代ヨーロッパ経済5版』（有斐閣）、(4) 庄司克宏『ブレグジット・パラドクス：欧州統合のゆくえ』（岩波書店）などの文献を全員で読む。これらの文献の講読を通じて、基礎知識を習得するとともに、文献や資料の読み方、資料の収集方法、発表の仕方、討論への参加の仕方、文章の書き方などを学ぶ。

4年次には、各自テーマを設定して卒業論文を作成する。演習参加者は、卒論作成に必要な資料の収集を進め、卒論のテーマに関する研究を深める。授業では、輪番で、卒論に関する研究発表（中間発表）をおこなう。中間発表をめぐるゼミ生全員によるディスカッションを通じて、論点を絞り込み、卒論の内容を深めていく。

演習での勉学で十分な成果を挙げるためには、(1) 読書好きであること、(2) 知的好奇心と問題意識を持っていること、(3) 調査・研究を厭わないこと、が肝要である。意欲のある学生の参加を歓迎する。

中尾 茂夫 ゼミナール

演習のテーマ

金融市場と労働市場の変容を学び、生きる知恵をさぐる

演習の内容

金融市場と労働市場はともに激動を極め、かつて日本型と称された慣行やシステムは音を立てて、崩れているように見えます。労働市場では終身雇用も年功序列も黄昏となり、労働力の 40%弱が非正規労働力となりました。一方、金融市場でも銀行を中心とした間接金融は勢いを失くし、ファンド資本主義と言われるような資本市場を中心とした活動に主軸を移しています。今や、東京証券市場の現物取引でも、大阪取引所の先物取引でも、圧倒的に投資の主役は海外投資家です。かつての生保・銀行・信託といった日本の機関投資家の存在は、明らかに後退しています。

国際ポジションでも、かつてGDP世界2位だった日本経済は、2010年に中国に抜かれ、年々、その格差は離れるばかり、現在は3倍あまりの格差をつけられています。トップの米国に迫りつつある中国の経済力の勢いに比べ、劣化し続ける日本の存在感の後退は明らかです。東南アジアでも、かつて貿易でも投資でも最大の取引相手だった日本は、明らかに落ちています。時価総額で見た企業ランキングでも、バブル期には圧倒的に上位を席卷していた日本企業は米中の多国籍企業に水を開けられ、今や、時代の先端を走るIT企業はほとんど育っておらず、相変わらず、自動車や電機といったかつての製造業が相変わらず中心です。産業構造の転換に失敗した姿が見えます。はたして、外国人観光客のインバウンドに活路を見出す観光立国化で生きて行けるでしょうか。

こうした劣化傾向に、トドメを刺すかのように、少子高齢化の波が止まらず、生産力人口の減少から、移民政策への前向きな対応、高齢者の定年延長、介護士・保育士の増大といった諸政策で対応できるのかどうか、事態の深刻さは変わっていません。地方では都市部への人口流出が止まらず、財政事情の逼迫が続く自治体は、綱渡りの運営を強いられています。都市や地方の別なく、生活苦に喘ぐ人々の不安や悲鳴が聞こえてきそうです。

こうした厳しい経済事情から脱出する知恵は何なのか。低迷するこの国で、いかにして生きて行くべきなのか。2020年度は、一緒に考える学生を募集します。ここで10数年続けてきたわたしのゼミ募集は、これで最後です。この大学を去る前に、最後を飾るに相応しいやる気のある学生、こういった問題を一緒に考えてみたい学生を求めます。2019年3月に出版した拙著『日本が外資に喰われる』（ちくま新書）は、「失われた30年」に関するわたしの総括書です。この拙著の主張に共感できる学生を求めます。人材の素養に求められるのは詰め込んだ知識の量ではなく、旺盛な知的好奇心なのです。

中野 聡子 ゼミナール

演習のテーマ

経済学史・経済思想史

演習の内容

この演習は、経済学史・経済思想史をベースにしながら、現代に到るまでの経済学の基本的な考え方を習得することをねらいとしています。つまり、経済理論や思想が、どのような時代や場所で、どのような文脈で出てきたかを参照しながら、現代の経済学の理解を深めようとしています。さらに、現代の経済学の問題点や可能性を探るために、様々な学説の限界と意義を検討します。したがって、経済学に今ひとつ理解できない部分がある、あるいは、もう少しその意味を深く考えたいというような問題意識のある学生の参加を想定している。

例えば、A.スミスは、経済自由主義をどのような思想で捉えていたか？経済学という学問はどのような経緯で誕生したのか？J.M.ケインズの経済政策は、どのような思想に裏付けられて登場したのか？F.ナイトは、不確実性をどのように捉えたか？企業の役割や機能を、経済学ではどのように捉えてきたか？経済学の実証的な方法は、どのようにして現れてきたか？など、ミクロ経済学やマクロ経済学の背景にある経済学の考え方を総合的に見ていきます。

2020年度は、春学期中に経済学の歴史を概観し、夏休みから秋学期にかけて、特定のテーマを研究します。特に、アダム・スミスの経済自由主義の思想を検討し、経済学の成立期の株式会社制度、分業組織、特許や著作権に関わる市場制度についての理論史、思想史を扱います。

中村 友哉 ゼミナール

演習のテーマ

合理的な行動と非合理的な行動の分析（情報の経済学、行動経済学）

演習の内容

このゼミでは、人間の「合理的な行動」と「非合理的な行動」を学び、経済学を日常生活に応用するトレーニングを行います。

「合理的な行動」は担当教員が開講する「情報の経済学 1、2」で学習します。情報の経済学はゲーム理論を発展させた分野です。合理的な人間を想定して、不確かな情報のもとでの「かけひき」を分析します。情報の経済学の学習によって「**かけひきを合理的に分析する力**」を身に付けます。ゼミは「情報の経済学 1、2」の内容を前提に進めます。

ゼミの時間は、行動経済学のテキストを輪読します。行動経済学は、心理学の知見を経済学の枠組みに取り入れて、人間の「非合理的な行動」を分析する分野です。計画の先送りやダイエットの失敗といった「意志の弱さ」は、非合理的な行動の代表例です。行動経済学を学ぶことで、「**非合理的な行動と付き合う方法**」を身に付けます。

また、ゼミではチームでテキスト内容を発表するだけでなく、ビブリオバトル（本を紹介し合うゲーム）など、プレゼンの機会を多く作ります。プレゼンを通じて、相手に自分の考え方や意見をわかりやすく「**伝える力**」を身に付けます。

教員と現在の所属学生、そして、新しく加わる学生がお互いに協力して、ゼミを作っていきたいと考えています。人それぞれに得手不得手はあると思いますが、自分なりに貢献できることを見つけて、ゼミ活動に協力的に取り組んでいける人を歓迎します。

西尾 敦 ゼミナール

演習のテーマ

データ解析の理論と実践

演習の内容

3 年次：全員でテキスト（未定）を講読し、並行して、「R」による分析の練習をする。

4 年次：原則として個別にテーマを設定し、データを収集し分析を行い、結果を卒業論文にまとめる。テーマは自由。過去の例を挙げると

- 消費者物価指数の時系列分析によって、消費税導入（税率変更）が物価に及ぼす影響を、品目毎に推計し、これを基に流通構造などを考察した。
- 1920 に始まる国勢調査その他の長期統計や現在の生命表などを用い、出生年によるコホート分析を行い、生年（世代）毎の日本人男女の平均寿命(たとえば 1920 年生まれの男性の平均寿命は約 54 年であることなど)を推計した
- J リーグ公式戦の全データから、ポアソン回帰分析とよばれる方法を用いて、各チームの得点力、守備力を同時に推計した。(スポーツに関しては、データがネット上にも豊富で集めやすく、また面白いのでここしばらく、毎年誰かがテーマとして取り上げている)

村田 玲音 ゼミナール

演習のテーマ

現代暗号の仕組みと、経済活動への応用

演習の内容

暗号は、「大切な情報を、自分が伝えたい人だけに伝える」技術です。戦争などの場面で、味方とだけ情報をやりとりするために考え出され、使われてきました。この暗号が現代社会では必須の技術になっています。

インターネットで外国から買い物をすれば、クレジットカードの番号を送って代金を払わなくてはなりません。クレジットカードの番号は大切な秘密情報ですから、取引先には正確に届かなくてはなりません。それ以外の人に知られては困ります。ここで暗号の出番になります。クレジットカードの番号に暗号をかけて送ればよいのです。でも、これまで一度もメールのやりとりをしたことのない相手と、どうやって暗号通信をするのでしょうか？

近年、インターネットの発展などにより、経済活動が大きく変化しました。これに伴って暗号の必要性や利用価値が飛躍的に大きくなっています。スイカや電子マネーを陰で支えているのは暗号技術です。また、個人情報の保護や本人確認の手段（認証技術）など、暗号技術が利用される場面はどんどん広がっています。電子カルテ、電子投票といった言葉を耳にした人も多いでしょう。

このゼミでは、

- 1 現在使われている二種類の暗号——秘密鍵暗号と公開鍵暗号——の仕組みを勉強し
- 2 暗号が実際に経済活動の中でどのように使われているかを調べ
- 3 そうした中から特定の技術を選んで卒論にまとめます。

教科書 『明るい暗号のはなし——ネットワーク時代のセキュリティ技術』 今井秀樹
(裳華房)

室 和伸 ゼミナール

演習のテーマ

マクロ経済学

演習の内容

人生は選択の連続である。もし貴方 1 人が無人島で生きていくとしたら、每期どのような決定をすべきか。初期に一定量の小麦の種があり、それを植えて生産された小麦のうち、どれだけ消費し、どれだけ貯蓄するのがよいか。このような每期の最適決定を考察していくためには、時間を通じた動学的分析が必要となる。この演習では基本的な動学分析の基礎を習得した上で、様々なマクロ経済学の問題を考察していく。動学的アプローチにより、下記のような、長期・中期・短期のマクロ経済分析を行う。

(1) 経済の発展メカニズムを明らかにする経済成長理論

研究開発投資、教育投資、公共投資が経済成長率へ及ぼす効果を分析し、望ましい経済成長戦略を考察する。また、2 部門経済成長モデルを使って、製造業とサービス業の推移を考察する。

(2) 所得格差拡大のメカニズムを明らかにする所得分配論

近年観察されている資本分配率が上昇する要因は何か。労働市場と財市場の不完全性を考慮したマクロ経済モデルを考察し、労働組合の交渉力と財市場競争度合いに焦点を当て、所得格差拡大の要因、そして、格差是正の方策を検討する。

(3) 財政・金融政策の効果を明らかにする景気循環論

厚生最大化のための望ましい税のあり方（消費税、資本所得税、労働所得税のどこからどれだけ課税すべきか）を考察する最適課税問題、ルールに基づく政策と裁量的政策のどちらが望ましいか、流動性の罠に陥った状況での望ましい財政・金融政策のあり方、様々な政策が経済に及ぼす効果の定性的・定量的分析を行って政策評価する。

赤松 直樹 ゼミナール

演習のテーマ

消費者視点によるマーケティング戦略の分析

演習の内容

このゼミナールでは、「消費者の視点に立ちマーケティングについて分析すること」を基本的なスタンスとしています。研究論文や学術書の読み込みはベースとして必須ですが、例えば、仮説構築や仮説検証のために利用するデータの種類の問いません。

基本的には、グループワークが中心です。最初は、共通の課題や既存データに関して各グループで研究を進めてもらいますが、後半段階からは、研究テーマや課題設定、データ収集・分析など一から研究をはじめて、その成果を報告してもらいます。これには、ある程度の時間と議論を要するため、ゼミナールの時間外でもグループワーク等を自主的に行うことが求められます。また、他大学のマーケティングゼミとの勉強・研究会、討論会などにも参加する予定です（第1、2期生は「関東学生マーケティング大会」に参加。大会の詳細は、HP などをご覧ください）。

ゼミナールを通じて勉強・研究に打ち込むことで、物事の考え方・議論の仕方などを少しでも深めていきたい、長期にわたって付き合っていける友達を作りたい等、大学生活をより一層充実させたいと考えている学生をお待ちしています。

飯田 浩司 ゼミナール

演習のテーマ

コンテンツビジネスと法

演習の内容

このゼミでは、いわゆる「コンテンツビジネス」に関して、ビジネス面と法律面での問題点を検討します。一口にコンテンツビジネスと言っても、出版産業、音楽産業、映画産業、アニメ産業、ゲーム産業、演劇産業、放送業、インターネット産業、コンピュータソフト産業など多岐にわたっていますが、このゼミではとりわけ、音楽産業などのエンタテインメントに関連するビジネスを中心に上げたいと思います。ビジネス面に関しては、それぞれの産業が抱える今日的課題や将来像が中心となり、また、法律面に関しては、著作権法が中心になるかと思いますが、その他コンテンツビジネスに関する法（例として、特許法、契約法、独占禁止法等）についても取り上げることができればと考えています。

3年次春学期は、コンテンツビジネスを理解する上で不可欠な著作権に関する知識を習得します。秋学期は、コンテンツビジネスの各業界の概要や直面する問題等について、グループまたは個人で予習の上、発表してもらおうことを考えています。4年次は各自テーマを設定して卒業論文を作成します。

コンテンツビジネスを対象とするゼミなので、実際のコンテンツビジネスの現場（レコーディングスタジオ等）を見学したり、コンテンツビジネスの現場で働く人の話を聞いたりするなどの機会を設けていきたいと考えています。また、ゼミ合宿や懇親行事も実施する予定です。

池尾 恭一 ゼミナール

演習のテーマ

消費者行動とマーケティング戦略

演習の内容

今日、わが国企業を取り巻く環境は、世界経済における日本経済の立ち位置の変化、消費者行動の変化、従来型競争力の行き詰まり、情報通信技術の発展やグローバル化の進展など、多くの面で、大きく変化しています。そのなかで、どのような製品を販売するか、価格をいくりにするか、どのような広告を行うかなどを内容とするマーケティング戦略は、大きな転機を迎えています。本ゼミナールにおいて取り扱うテーマには、メーカーやサービス業のこうしたマーケティング戦略の検討、あるいはその基礎となる消費者の行動や顧客の行動の理解、さらには小売業態や電子商取引といった流通問題の分析などが含まれます。具体的には、現在わが国で起こりつつある環境変化を踏まえながら、個々の製品・サービス分野における顧客の行動や競争業者の行動を理解し、マーケティング戦略やそれを支える仕組みを検討していく予定です。

稲山 健司 ゼミナール

演習のテーマ

経営戦略論・経営組織論

演習の内容

このゼミナールでは、企業における多様な現象（戦略策定・実行、イノベーション、新製品開発、企業革新など）を理解するためのスキルを修得することを目指します。そのために、以下を学習の柱とします。

- 経営戦略論、経営組織論などに関する文献を読む。このことを通じて、経営現象を理解するための基礎的なコンセプトとフレームワークを獲得することを目指します。
- 事例研究を行う。事例研究では、経営現象を経営戦略論・経営組織論の視点から分析することを目指します。

大澤 篤 ゼミナール

演習のテーマ

企業成長の歴史

演習の内容

本演習では、参加者の“自由意思”によって特定企業を選択してもらい、その企業に関する研究論文（16000～20000 字程度）を 1 年かけて作成してもらいます。その狙いは、参加者が「大学では〇〇を勉強しました」と、就職活動に際して自信をもってアピールできるようになることにあります。

春学期は、必要とされる基本的スキルを習ったうえで、各自が分析対象となる企業を選び、具体的な研究テーマを決め、6 月以降は個人研究の進捗状況を 2 度報告してもらいます。そして 8 月初旬に進捗状況確認として、8000 字以上の文章を提出してもらいます。秋学期は 3～4 週間に 1 回程度のペースで同様の進捗報告を行い、年明けには論文を仕上げてもらいます。

また各自の研究報告に対しは、参加者による質疑応答・討論も行います。加えて、学術論文（経営史・経済史）の輪読、インゼミ（9 月）、工場見学（1 月）も実施します。

なお無断欠席・特段の理由なき遅刻が半期 3 回以上あった場合、その時点で単位取得は困難となります。そのほか、他者に対する非礼、ゼミの進行に支障をきたす行為（報告担当時の欠席・遅刻など）が散見された場合は、以後の出席を禁止することがあるので注意してください。

大竹 光寿 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティング、消費者行動、消費文化、ブランド

演習の内容

本ゼミナールの狙いは、ユニークな研究を行うことを通じて、学問を深めるだけでなく、社会に何らかの貢献をし、得たものを卒業後の活動に繋げることにあります。

取り上げる題材は、企業経営として「マーケティング」、経営環境として「消費者行動」や「消費文化」、そしてそれら2つを結びつける「ブランド」です。文化という視点からマーケティングと消費との関係を検討し、大企業のみならず、スタートアップ企業にも着目して、ブランド・マネジメントについて理解を深めていきます。

ゼミナールでは、個人研究とグループ研究を並行して行います。個人研究については、卒業論文として、自分にとって切実な問いを設定し、自分なりの答えを出す作業を行います。そのために、関連するテーマの研究論文や学術書、研究方法に関する文献を読みその内容をゼミ生らと共有・議論したり、フォールド調査に出かけたりします。また、研究成果をゼミで随時発表して、ゼミ OBOG を含む実務家からもフィードバックをもらい、研究を深めます。グループ研究に関しては、関心が近いゼミ生とチームを組んで、現場でブランディングに携わる方々と接しながら、社会に対して何らかの貢献ができるようなプロジェクトを企画・実行してもらいます（下記参照）。

こうした個人研究とグループ研究を通じて、実務の現場との接点を学生なりに見つけて、学問と実践を行います。合宿や大学外での活動などについて学生の意見を取り入れながら、良き学びと出会いの場となるよう、ゼミナールを作り上げていきます。課外活動やOBOG 会の運営などにも積極的に携わる学生の参加を期待しています。

※グループ研究のテーマ（直近2年間）：各チーム（3名ほど）で秀逸なブランドを探して、ブランドブック（創業者、社長、職人、マーケター、取引先、顧客、ジャーナリストなど、そのブランドに関わる方々を実際に取材し、写真や文章などでブランドの本質をまとめた本）を作成する。そして、取材内容や共同プロジェクトの結果を社会に発信する。つまり、単に取材するだけでなく、自らコンテンツのマーケティングも行うことになる。取材を通じて実務家から学んでいるのでそれが活かせる。実務家や学者の本もそれに合わせて読み込む。協力先企業へのアポ取り、本社での企画提案のプレゼンも含めて学生主体で行う。学生の取り組み自体がメディアから取材を受け、取り上げられることもある。

・主な企業とブランド：アサヒ（玄米ブラン、カルピス）、クックパッド、SALASUSU、資生堂、D&DEPARTMENT、富士フイルム（写ルンです）、堀口切子、ミリメーター、森ビル

北浦 貴士 ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の経営分析

演習の内容

このゼミでは、歴史的な視点をはじめとする様々な観点から、日本企業の経営を検討しています。演習 A1・A2 では、教員が指定した日本企業の経営を事例にして、企業分析の方法を学び、3 年次終了までにゼミ論文（1 万字程度）を執筆します。A3・A4 では、ゼミ生自らが設定したテーマに基づいて、卒業論文を執筆します。

2020 年度に分析する企業及び事業は、東京ディズニーリゾート（オリエンタルランド社のテーマパーク事業）です。2013 年度の演習 A1・A2 においても、同じテーマで分析を行いました。2013 年度の研究成果を踏まえ、それ以降、経営戦略がどのように変化していったのかを考えます。分析にあたっては、ビジネスをパーク・アトラクション・フード・グッズ・キャストの 5 つのパートに分類し、ゼミ生各自が 1 つのパートを担当します。各パートは 2 名、もしくは、3 名によって構成されます。

このゼミにおける最大のイベントは、毎年夏休みに 1 泊 2 日で実施するゼミ合宿です。参加は自由ですが、参加すればきっと素晴らしい思い出になると思います。ゼミ教員の特徴は、笑顔とのんびりとした性格です。特に笑っていなくとも、笑っていると言われます。ですので、ゼミものんびりとした、ストレスのない雰囲気です。でも、笑顔でどんどん課題を出すので、注意してください。

最後に、経営学を使って、日本企業を丸裸にしましょう！皆さんの大学生活最後の 2 年間でより有意義なものにするお手伝いができれば、幸いです。では、皆さんと一緒に勉強できることを心より楽しみにしています。

齊藤 嘉一 ゼミナール

演習のテーマ

マーケティングと消費者行動

演習の内容

なぜたくさんの人が繰り返し東京ディズニーランドを訪れるのだろうか？なぜ多くの人たちが「スタバなう」とツイートするのだろうか？このゼミは、私たちの身近に起こっているマーケティング現象に「なぜ？」という問いを投げかけ、その問いに対して、消費者行動の立場から、ユニークあると同時に説得力のある答えを見つけることをねらいとしています。

マーケティング現象を説明するためには、文献からマーケティングや消費者行動の理論を学ぶことも求められますが、それだけでは十分ではありません。ゼミでは、身近にあるマーケティング現象に興味を持ち、マーケティング現象を理論に基づいて説明しようと試みることで、そして、理論に基づいて現象を説明しようという試みの中で生まれてきた仮説を、データを収集・分析することによって検証することを目指します。

理論を学ぶこと、データ収集と分析のスキルを身に付けることも大切ですが、現象を自分なりに説明しよう、自らが導き出した仮説を検証しようとする姿勢が何より大切だと考えます。主体性を持った学生諸君の応募を待っています。

佐藤 成紀 ゼミナール

演習のテーマ

企業の会計システム

演習の内容

企業の会計システムに関するテーマを各自が選択し、毎回順番に報告していく。研究領域は、財務会計、管理会計、あるいは原価計算等の会計学分野であれば、まったく自由である。報告者は、事前に十分な資料調査を行い、演習でのディスカッションに備えることが要求される。報告者以外のゼミ生も、毎回、最低一回の質問をノルマとして課せられる。3年次では、英文決算書を読む力をつけながら、資料の収集やプレゼンテーション、ディスカッションを経験しつつ、各自のテーマを模索する。4年次では、卒業論文の執筆に専念する。毎回の個人報告は、卒論についての、各自の執筆段階での中間報告となり、それをめぐるゼミ生全員でのディスカッションを通じて、問題点を絞り込み、論文の内容を深めていく。こうした2年間の演習を完遂するには、相当の忍耐力を要するが、その過程こそが、ゼミナールの醍醐味であったことを、いつの日か、懐かしく思い出すことになるであろう。

鳥居 宏史 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計

演習の内容

「楽しい時間を過ごしたい」が私のモットーです。そして、「自分の意見を述べよう」がゼミ運営上のポリシーです。

3年次ゼミは、管理会計の基本書にもとづいて、学生みずからによる報告と質疑応答形式で進められます。ピントが外れていても構いませんから、議論に積極的に参加する態度が大切です。ゼミ運営上のポリシーにのっとり、無発言の場合には罰金を課します（集めたお金は、モットーにしたがい、ゼミ生との楽しい時間を過ごすために利用されます）。なお、夏合宿では、夜更けまで一所懸命勉強するのが恒例です。4年次ゼミでは、各自が関心をもったテーマに沿った卒業論文の制作がメインになります。

管理会計を学ぶ上で必要となる教養知識として工業簿記と原価計算は必須です。少なくとも日商簿記検定試験 2 級に合格することが要請されます（申し込み時点での合否は問いません）。1 級、公認会計士試験などの資格試験合格を目指すゼミ生には、個別的な相談で対応します。

研究分野の性格から、現実の企業動向に興味があることが望ましいでしょう。モノづくりの本質やおカネの動きを実感するために、実際の工場見学やバーチャルな株式学習ゲームへの参加も予定しています（最近の例では、食品工場、自動車組立工場、航空機整備場の視察や証券取引所の見学をしました）。

ゼミの本質はもちろん勉強にありますが、仲間同士の親睦を図ることも重要な要素と考えています。学生企画によるフィールド・スタディ等の企画也大いに歓迎します。

西村 三保子 ゼミナール

演習のテーマ

管理会計

演習の内容

企業会計は、その企業に関する取引データを収集し、処理し、それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達する役割を果たしています。管理会計目的に会計システムが提供する情報は、実績記録、注意喚起、および問題解決に分類できます。つまり、管理会計情報は、企業の経営管理者が経営管理のために活用する会計情報なのです。

本ゼミでは、テキストにもとづいて、管理会計の様々なトピックについて全員参加で議論していきます。また、9月に2泊3日の夏合宿、12月に他大学とのインゼミ（合同報告会）を行ないます。

3年次には、基礎知識の習得を目指してテキストを輪読するとともに、毎回、レジュメを作成し報告します。

4年次には、各自が興味を持ったテーマを選択し、自らが情報を収集して、報告・議論を行ない、卒業論文を執筆します。

報告者以外のゼミ生も議論に積極的に参加することが大切です。どんな意見でも大歓迎ですので、ゼミが明るく活発な意見交換の場になるよう、皆さんで協力しましょう。

2年間のゼミ活動を通じて、学問上の知識を増やすだけでなく、長い付き合いができるような大切な仲間と出会えるとしたら、こんなに素晴らしいことはありませんよね？

濱口 幸弘 ゼミナール

演習のテーマ

情報と経営戦略

演習の内容

基本方針は、経営戦略の考え方（必要に応じてマーケティングも）および基礎的概念を十分に理解し、現実問題に応用できる実力を養うことです。それと同時に、議論できる力と説明能力を身につけられるよう指導します。

初年度は、経営学に関する教科書 2 冊くらいを中心に読み進め、随時、企業の調査分析を行います。このとき、演習問題および事例研究（自分で調べて報告）を通じて、理解を深めてゆきます。また後半では、時事的な話題（例えば、人工知能の経営戦略への応用）を取り上げます。そして必要に応じて、マーケティングのいくつかの項目も取り上げます。続く 4 年次では、卒業論文の製作を進めてゆきます。なお授業を補う形で、3 月下旬（2 年次）と 9 月下旬（3 年次）にゼミ合宿を行う予定です。

教科書は『経営戦略論入門』（日本経済新聞社）とその他

副読本は、『マーケティング入門』（日本経済新聞社）

林 祥平 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論、組織行動論

演習の内容

本ゼミナールでは、組織・集団・人について学びます。組織も集団も人の集まりであるため、突き詰めれば本ゼミの関心は人そのものです。組織における人について心理学的アプローチから学び、深く考える目を養います。例えば、「どうして安い給料でもイキイキ働ける人がいるんだろう」「緊張感があつた方が頑張れるのはどうしてだろう」といった身近な疑問に目を向け、自分なりの答えを導き出し、説得力のある説明ができるようになることを目指します。

3年次は、テキストの輪読とグループワークに取り組みます。テキストには、組織内の個人心理や集団心理を扱った本を使い、広く基礎知識を身に付けていきます。また各回のテーマに沿ってディスカッションをし、考える癖をつけていきます。グループワークは3-4人で組んでもらい、グループで決めたテーマについて学生が調べ発表し、議論します。4年次には、3年次の経験を活かして、各学生が興味のあるテーマを選び、卒業論文に取り組んでもらいます。（※2018年度のグループワークのテーマとしては「悪口で仲良くなるメカニズム」「相談をしやすくなるためには」「試験前に掃除をしてしまう理由」などがありました）

ゼミ合宿、社会人を招いた座談会、他大学との交流など学生の意見を積極的に取り入れながらゼミ活動を行っていきます。本ゼミが学生にとってより良いコミュニティになるよう、ゼミ作りに加わってくれる学生の参加を期待しています。

吉田 真 ゼミナール

演習のテーマ

ドイツ語圏における文化と社会の関係を考える

演習の内容

テーマについては、担当者の指導できる範囲である限り、参加者の希望、関心をできるだけ広く取り入れたいと考えている。

基本的にはドイツと日本を比較しながら文化と社会の問題を考える。たとえば過去に取り上げてきたテーマとしては、EUの成立と今後について、ユーロ危機、環境問題と原発の是非、学校教育、ドイツの自動車産業、ドイツの食文化、音楽と劇場文化、サッカーのブンデスリーガとJリーグ、ドイツと日本の戦後の憲法といったものがある。こうした問題について自由に議論をしてゆく。

Bゼミなので卒業論文はないが、卒論に準ずるようなレポート作成を目標とする。

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

国際貿易

演習の内容

毎回各自の研究テーマに関連した発表をしてもらい、それをもとに全員で議論します。

（3年春学期は共通の教材で国際貿易について学びます。3年秋以降は各自国際貿易に関する卒業研究をします。）選んだテーマに最後まで取り組むことで、一つのことを深く考え、それを他の人に説明し、きちんとした文章にするという経験をゼミで積んでいただきたいと考えます。私の関心分野や最近の研究について、詳しくは下記を参照してください。<http://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp>

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Leadership in Literature

演習の内容

This seminar will examine the *concept* of Leadership through the experiences of characters in works of fiction.

During the first year, we will read and discuss works of fiction to help us consider what the characteristics of a good leader might be, why some leaders succeed and some fail. Students will be expected to *read extensively in English* to prepare for class. During class, students will be expected to *participate actively*. Students will gradually assume responsibility for leading class discussion. Students will be encouraged to consider questions that emerge from discussion as possible research topics. As students will also be expected to write summary and response papers, there will also be instruction in writing.

In the second year of the seminar, students will research and write a graduation thesis on a relevant topic of their choice. Classwork will include scaffolded instruction in thesis writing and the presentation of oral research reports. Students will be encouraged to provide and make use of peer feedback.

岩尾 俊兵 ゼミナール

演習のテーマ

経営管理の理論と実践

演習の内容

岩尾ゼミの活動は、主に2つある。一つは座学で経営理論について学び、さらに議論するという理論面での学習である。もう一つは、毎年何らかのプロジェクトがあり、それに取り組むことで経営を実践してみるという実践面での学習である。

まず、理論面での学習方法について。ここでは、経営について「深く考える」ことを目的に、みんなで議論をおこなう。経営について考える必要はなにも経営者だけに限られたことではない。およそ人が集まる「組織」に所属する者にとって、「組織の中の他人に自分の意図を正しく伝える」ためにも論理的に経営を考える必要があり、自分の意図を正しく伝えなければいけないのは経営者だけでなく一介の新入社員であっても同様であるためである。そこで、ゼミナールでは、まずは徹底的に既存の経営学理論を学んでいき、その後その理論について批判したり、さらなる応用分野を考えたりする。それによって、論理的に考え、理路整然とコミュニケーションができるようになることが目標である。

具体的には、演習（ゼミ）では、輪読というオーソドックスなスタイルで、経営学・経営科学の基礎知識を身に着ける。輪読とは比較的高度な内容の本や論文を、少しずつ全員で読み進めるというものである。毎回発表担当者が1章分ないし1論文を要約したレポートを全員の前で発表するが、他の学生も必ず当該文献を読んでおき、発表者に対して質疑および討論をおこなう。演習前期では1冊の本を読んでいくのに対して、演習後期では主に経営学・経営科学の論文を読んでいく。毎回発表担当者が1論文を要約したレポートを全員の前で発表するが、他の学生も必ず当該文献を読んでおき、発表者に対して質疑および討論をおこなう。

次に、実践面での学習方法について。これまでの実績でいうと、防衛大学校での「国防と経営」シンポジウムの開催、東京都庁や港区役所といった役所を巻き込んだ「自殺の数理と経営学」シンポジウムの開催などをおこなってきた。今後は、Amazonでのゼミ論出版プロジェクト、国内最大手投資ファンドを巻き込んだ白金ベンチャーサミットの開催、ベストセラービジネス書のアメリカ人作家を招聘したシンポジウムなどの開催を考えている。もちろん、学生からの提案も大歓迎である。

このように、理論と実践の2段階で経営、マネジメントについて学ぶことになる。ただしゼミではこうした実践のための打ち合わせ、懇談会、イベントなどがあるため、理論面での学習を補うものとして、「コーポレートストラテジー」「経営戦略論」「ケーススタディ」など、ゼミ以外で提供している座学講義を履修することが望ましい。

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

ファイナンス

演習の内容

コーポレート・ファイナンスとインベストメントに関連する知識を一通り学ぶとともに、各自興味をもったトピックスの分析とプレゼンテーションによる発表を通して、ファイナンスの理解を目指していきます。コーポレート・ファイナンスでは企業がビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達したら良いのか、資金をどの事業（実物資産）に投資したら良いのか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定の方法を考えます。インベストメントでは株式や債券、デリバティブといった金融商品の価格がどのように決まるのかといった点や、金融商品への投資運用を考えます。ファイナンスの研究は多岐にわたります。例えば、あるイベントが株価や企業価値に与える影響を検証する分析、M&Aに関する調査分析、行動ファイナンス研究、企業の統治方法に関する考察、デリバティブや為替市場の分析、リスクの計測とリスクマネジメント、高頻度データの分析、マーケット・マイクロストラクチャーに関する分析など様々な問題意識から研究が進められています。

3年次の春学期はコーポレート・ファイナンス関連の輪読とグループワークを中心におこないます。輪読では教科書を事前に読みパワーポイントを用いた報告の準備をすること、議論に対して自発的に発言できる心構えが望まれます。グループワークでは金融データや資料を活用して情報を収集し、情報をまとめ上げる力を向上させるために、様々な角度からファイナンスに関する調査とExcel等を用いた分析にトライし、その成果を発表してもらいます。3年次の秋学期では、インベストメント関連の輪読や各自の興味に合った調査報告、卒業論文のプロポーザル作成を実施する予定です。欠席はゼミ全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。4年次では卒業論文の完成を目指していきます。

大平浩二 ゼミナール

演習のテーマ

経営学全般

演習の内容

経営に限らず、広い分野の何冊かの本(資料)を読み、それを基に議論します。レポートを書きます。積極的に学ぶ意欲と実行力が必要です。

神田 良 ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の企業戦略

演習の内容

企業戦略論を理論的な勉強をするとともに、実際に日本企業を調査して、自分たちで実証的に企業戦略を理論化する。実証研究は事例研究を通して、自分たちで企業行動を説明する仮説を構築する。事例研究では、研究テーマをいくつか絞って、グループで調査・研究にあたる。

今年度は、2つのテーマを考えている。一つは持続的競争力を構築するマネジメントの研究で、対象は老舗企業で、東京商工会議所中央支部の老舗企業塾の協力を得て、老舗企業の経営に関する研究をする。二つ目は地方企業の活性化で、大都市ではなく地方で事業を展開している企業が、地方の資源を活用して、どのようにして地方を超えて事業を展開することができるのかを研究する。日本生産性本部の地方創生カレッジの協力を得て、地方の活性化と地方企業の活性化の連動をどのようにしていくべきかを研究する。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

国際商取引論と実践的ビジネススキル

演習の内容

国際的な取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論し、世界一流の舞台で通用するビジネスのセンスとスキルを身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学びます。

年間を通して3～4名で小グループを構成して貿易商社のビジネスプランを練り上げます。商材を決め、輸出入国や販売・仕入先を定め、マーケティングを考え、販売管理費をマネージしながら会社を存続させ発展できるように工夫します。このようにして貿易と経営の両面から学ぶことで、起業はもとより社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然と身に付けることができます。

毎週のゼミではビジネスプランの進捗状況はもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表・討議して、いつ国際取引の舞台にでても通用する基礎もしっかり身に付けます。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンを目指します。必ずや皆さんは「B ゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが一流企業に就職・内定して世界を舞台に活躍できることから、我がゼミ生への社会の期待の大きさが伺えます。

ゼミ第4期生よ来たれ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住17年、現在 レアメタル商社社長】

齊藤 都美 ゼミナール

演習のテーマ

産業組織論、ビジネス・エコノミクス

演習の内容

3 年次：

経済学の入門テキストを輪読したのち、産業組織論あるいはビジネス・エコノミクスの教科書を輪読する。教科書はゼミ生と相談のうえ決定する。また時事問題をテーマにディスカッションを行う。

4 年次：

各自テーマを決めて卒業論文を執筆する。また時事問題をテーマにディスカッションを行う。

応募条件は、①学問に対する関心があり、②他のゼミ生とのコミュニケーションを大切にし、③卒業論文を執筆すること、である。

手塚 奈々子 ゼミナール

演習のテーマ

聖書と西洋美術

演習の内容

西洋文化は、キリスト教とギリシャ哲学で成立している。この B ゼミでは、必要なヘレニズムの内容を抑えるが、主として聖書の内容を描いた西洋美術を研究する。学生が西洋文化を深く理解し把握することを目的とする。

ゼミの進行として、学生は、聖書の概要をあらかじめ把握し、そのうえで聖書箇所に関連する西洋美術（絵画・彫刻等）を研究する。

春学期は、『聖書』の概要を確認する。イエス・キリストの生涯・新約聖書、旧約聖書の主たる箇所を毎回あらかじめ読んできて、ゼミで各自意見を述べる。発表箇所については各自プレゼンテーションする。春学期発表及び聖書についてレポートを書く。

秋学期は、聖書の内容を描いた美術作品およびその作者について研究する。ミケランジェロ、カラヴァッジョ、ルオー、シャガール等各学生が関心を持つ作品及び作者に関する書物をあらかじめ読んできて、ゼミで各自意見を述べる。自分の関心を持つ作品及び作者について各自プレゼンテーションする。秋学期発表及び西洋文化についてレポートを書く。

学習意欲があり、毎回予習したうえでゼミに出席し、自分の意見を述べ他人の意見も聞き話し合えること、プレゼンテーションやレポートの期日を守り果たす学生のみ履修すること。

教科書は、『聖書』（新共同訳）、日本聖書協会。

参考書は、『アートバイブル』ⅠとⅡ、日本聖書協会。

他に、関連する参考書をゼミで紹介する。

タット リドー ゼミナール

演習のテーマ

Development Economics

演習の内容

This seminar focuses on International and Development economics, i.e. the economic issues in developing countries. In addition to the theories of economic growth and development, and international trade, selected topics pertinent to the problems of developing countries such as the problems of poverty and inequality, population growth and urbanization, internal and international migration, environment, trade policies, balance of payment, financial and economic crisis, foreign direct investment(FDI) and official development assistance (ODA) will be discussed. In the seminar, students are expected to actively participate in the discussion and make a presentation. The seminar will enable students to understand various development issues in developing countries and to be able to comprehend the differences between developing and developed countries, particularly between developing countries, mainly countries in Southeast Asia, and Japan. This course is helpful for students who are interested in working in other countries (as there are many Japanese companies outside Japan, especially countries in Southeast Asia) .

西原 博之 ゼミナール

演習のテーマ

国際経営論、異文化マネジメント、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営

演習の内容

同演習の研究対象は、「国際経営」、「異文化マネジメント」、あるいは、「グローバル人材育成」、「企業の海外進出」「組織の国際化」などに関する研究である。

演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることであるが、演習を通して以下の能力を養う。

- 1) 情報機器を用いたプレゼンテーション方法の学習
- 2) 共同作業を通して報告書作成、報告するなど、共同プロジェクトを管理する能力育成
- 3) ケース・スタディや実証研究を通して理論的な考察や分析能力の向上
- 4) 卒業論文の作成により、4年間、大学で学んできたことの集大成を行う。

したがって、演習では、以下の通りに進めていく。

第1に、国際経営に関する基本的な文献を輪読する。その際、少人数のグループごとにレジュメを作成してプレゼンテーションを行い、国際経営に関する基礎知識を養う。

第2に、国際経営に関する事例などを用いて討論を行う。その際、各グループが事前に課題を準備し、演習時間はグループ間の質疑応答という形式で演習を進めていく。なお、事例に関連して、実証研究の方法論などについても触れていく。

第3に、卒業論文の執筆方法についての確認を行うと同時に、卒業論文のテーマの設定、枠組づくり、関連文献の収集及びまとめなどにより研究課題を検証していく。

卒業論文作成までの具体的な演習活動は、1) 個々の研究テーマの設定、1) タイトル及び研究計画の報告、2) 中間報告、3) 調査研究の概要に関するプレゼンテーションを行い、担当教員の許可を得た上で卒業論文を提出することになる。

広瀬 要輔 ゼミナール

演習のテーマ

データ分析・計量経済学

演習の内容

経済・経営の分野では様々なデータを入手することができます。本ゼミでは、これらのデータを分析することで経済・経営を理解していくことを目標とします。

演習では 3 年次にデータ分析に関する知識と分析ソフトの操作方法を習得していきます。具体的には計量経済学に関する入門書を参加者で読み進め、分析ソフトを動かしていくことにより実際の分析方法を身につけていきます。続いて興味のある論文を選び、その論文はどのような分析方法を用いているのか、その分析により何が明らかになったのかなどを理解していきます。時間があれば、実際のデータを用いてその論文と同様の分析をおこないまとめます。4 年次では各自で自由に設定したテーマにそって分析を行い、卒業論文の完成を目指します。

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略と財務情報―事例研究―

演習の内容

国際的な財務報告制度を理解したうえで、グローバル企業の経営戦略と財務情報との関係を企業間および時系列で分析し、さまざまな会計処理方法の意義を検討する。

- ① 財務報告制度の国際比較 ―EU・米国・日本―
- ② 企業の経営戦略と会計処理方法との関係
―のれん・R&D・在庫・収益認識・投資など―
- ③ 企業の業績と財務情報（会計処理方法）の国際比較
- ④ 財務情報と株価
- ⑤ その他

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds.

In the third year, students learn about the basic principles of public speaking and examine case studies of professional speakers making great speeches, in order to explore possible ways to engage as a confident and professional speaker in public. Also, in preparation for writing a thesis in English in their final year, students write multiple-draft essays that have these supported by logical arguments and incorporate information from texts.

In the fourth year, students learn in-depth about theoretical aspects of public speaking in terms of text organization, linguistic features, delivery features, and psychological aspects, and understand how to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers. Students are then asked to select and examine a couple of public speakers by using these aspects in order to identify their own ways to become a truly professional speaker. The analytical viewpoints and findings from their examinations will be illustrated in their graduation thesis.

In every seminar during the third and fourth years, students are highly expected to actively work on group and class discussions in English.

山田 純平 ゼミナール

演習のテーマ

企業会計

演習の内容

初心者でも参加できるように、企業会計の基礎から始めたいと思います。

まずは決算書の分析について説明した本を読んだ後、各自が実際の決算書を分析し、その結果を報告してもらいます。その後、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、問題点を議論する予定です。ここでは、企業会計に関する基礎知識を学ぶとともに、基本書を読んで重要な箇所をまとめる能力を養うことも意図して行います。

その他に、他大学との研究報告会で報告をしてもらうので、その準備を行います。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。

発 行 日：2019 年 6 月 7 日 / 7 月 24 日更新

2020 年 2 月 12 日更新

編集責任者：中野 聡子

編 集：明治学院大学 経済学部

〒108-8636

東京都港区白金台 1 - 2 - 37